

電線材料カンパニー事業戦略

日立金属 IR Day 2017

2017年5月31日

日立金属株式会社

執行役 電線材料カンパニープレジデント

村上 和也

電線材料カンパニー事業戦略

[目次]

1. 事業概要
2. 成長戦略・アクションプラン
3. まとめ

ポートフォリオ刷新による利益体質強化

■成長3分野へ経営資源を集中投入

鉄道 グローバル供給体制とソリューション営業体制の強化
(中国:2016年6月設備増強、チェコ:2016年10月設備導入)

医療 HTP-Meds社 新工場稼働・量産開始
(2016年9月)

電装部品 センサー・ハーネスの新ライン導入
(日本:2016年7月稼働、メキシコ:2016年4月稼働)

鉄道・医療・電装部品分野の成長を加速

■事業構造改革の着実な実行

情報システム事業の譲渡 (2016年12月)

リードフレーム事業の売却、伸銅事業の完全子会社化 (2017年1月)

事業構造改革の完遂、成長フェーズへ

基盤製品

主な製品群

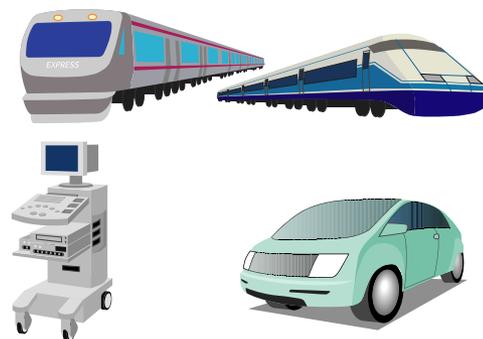
- 建設・電販用電線
- 機器電線
- マグネットワイヤ
- 工業用ゴム
- ブレーキホース



成長分野

主な製品群

- 鉄道車両用電線
- 医療機器用電線
- 自動車電装部品



電線材料
セグメント

2016年度
売上収益
2,414億円

- 情報システム事業
(2016年12月譲渡)
- SH銅パープロダクツ
(2017年7月
特殊鋼カンパニーへ移管)

調整後営業利益 : 147億円
調整後営業利益率: 6.1%

成長分野

鉄道車両用電線



医療機器用電線



自動車電装部品



基盤製品

建設・電販用電線



モノづくり改革
による競争力強化

マグネットワイヤ



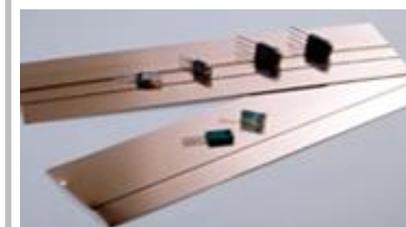
EV*市場で磁性材料
カンパニーとの
シナジー追求

ブレーキホース



グローバル
生産体制の拡充

銅条



特殊鋼カンパニー
に移管し、
シナジー発現

*ハイブリッド電気自動車(HEV)、プラグインハイブリッド電気自動車(PHEV)を含む電気自動車(EV)を指しています。

電線材料カンパニー事業戦略

[目次]

1. 事業概要
2. 成長戦略・アクションプラン
3. まとめ

■電線材料カンパニー基本方針と成長戦略

基盤製品の強化と成長分野の拡大による 高収益体質への変革

- 技術革新による基盤製品の競争力強化
- 成長3分野へ経営資源を集中投入
- EV-FA分野における他カンパニーとのシナジー追求

■2018中期経営計画 目標

	2016年度 実績 (為替レート 1\$=108円)	2018年度 目標* (為替レート 1\$=110円)	16年対比 増減
売上収益	2,414億円	2,100億円	△13%
調整後営業利益	147億円	200億円	+53億円
調整後営業利益率	6.1%	9.5%	+3.4%
海外売上比率	34%	40%	+6%

*株式会社SH銅パイププロダクツ移管の影響を含んだ数値です。

■ 主要なアクションプラン

基盤製品		製造プロセス革新による競争力強化 <ul style="list-style-type: none">・新型連続鋳造圧延ライン・マグネットワイヤ革新的生産ライン
成長分野	鉄道	世界の市場に対応する製造拠点の強化 <ul style="list-style-type: none">・モノ+ソリューションの提案強化
	医療	チューブ事業の拡大 <ul style="list-style-type: none">・プローブケーブルのコスト競争力強化
	電装部品	EPBハーネス事業の拡大 <ul style="list-style-type: none">・グローバル供給体制の強化

■ 新型連続鋳造圧延ラインの導入 (2018年4月稼働)

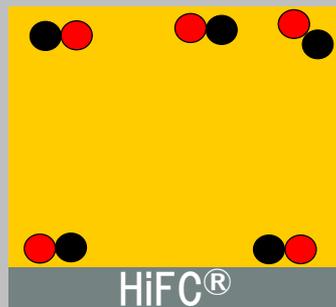
最新の制御技術(IoT)を駆使した導体製造ライン

エネルギー効率・生産性の大幅な改善

新プロセス導入によるHiFC[®] (新銅合金)の本格量産

HiFC[®]の特徴

チタンを添加することで、
高純度銅相当の特性を実現



● 不純物 ● チタン チタンと不純物が結合

適用製品例

適用のメリット

マグネットワイヤ

溶接性の向上
2%*の軽量化

建設・電販用電線
機器電線

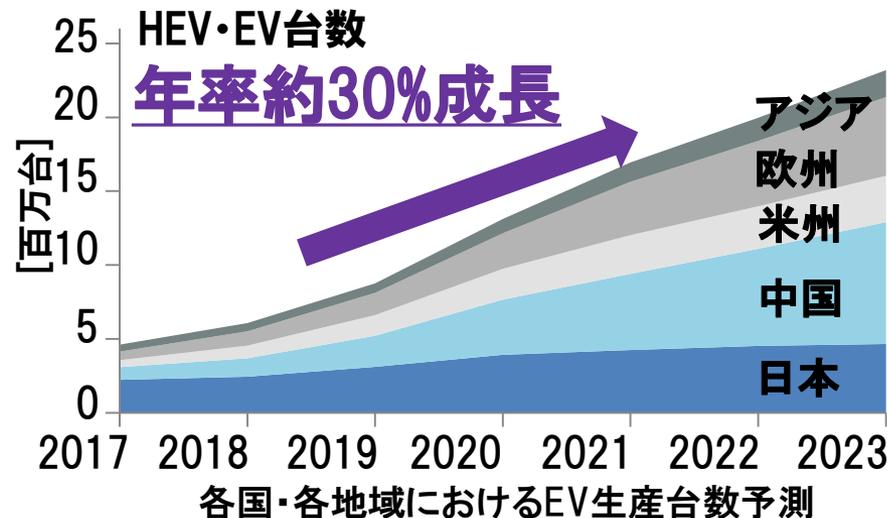
作業性の向上
細径・軽量化

革新的設備導入による基盤製品の競争力強化

■EV市場の事業拡大

磁性材料カンパニーと
シナジー創出

モーターの高電圧化、
小型軽量化、長寿命化に貢献



■差別化による製品競争力の強化

	導体	絶縁	プロセス
特長	HiFC®	耐サージ性 高PDIV	革新的生産ライン → 生産の高速化



マグネットワイヤ 2025年度売上1.5倍(2016年度対比)

2-5. 成長分野の市場環境

高速鉄道	世界各国で建設計画があり、この先20年は、年平均で約3%の成長
医療機器	高齢化や医療の高度化に伴い、2021年までは、年平均で約5%の成長
自動車	EVの伸展と共に、2023年までは、年平均で約2%の成長

	技術動向	当社対応製品
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ■ 細径・軽量化 ■ 国際(EN)規格対応 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鉄道車両用電線 ■ 細径特高圧ケーブル ■ シリコン端末
医療機器	<ul style="list-style-type: none"> ■ 低侵襲性 ■ 細径・フレキシブル化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医療用チューブ ■ 超音波診断装置用 プローブケーブル
自動車	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電装化加速 ■ EV化伸展 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 複合EPB用ハーネス ■ 磁界センサ等 ■ マグネットワイヤ

■世界の市場に対応する製造拠点の強化

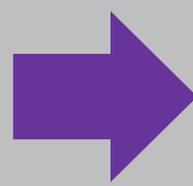
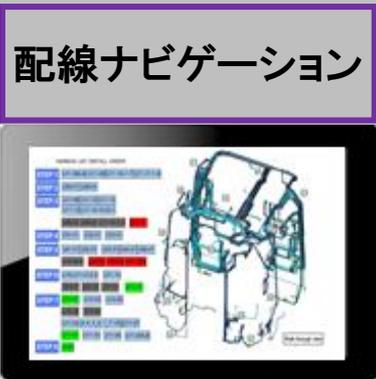
中国 革新的電線製造ラインの
増強と拡販(2017年度下期稼働)

欧州 チェコ拠点でのハーネス
量産と拡販(2016年度稼働済)



●当社製造拠点 ■納入実績 ○今後の案件

■モノ+ソリューションの提案強化



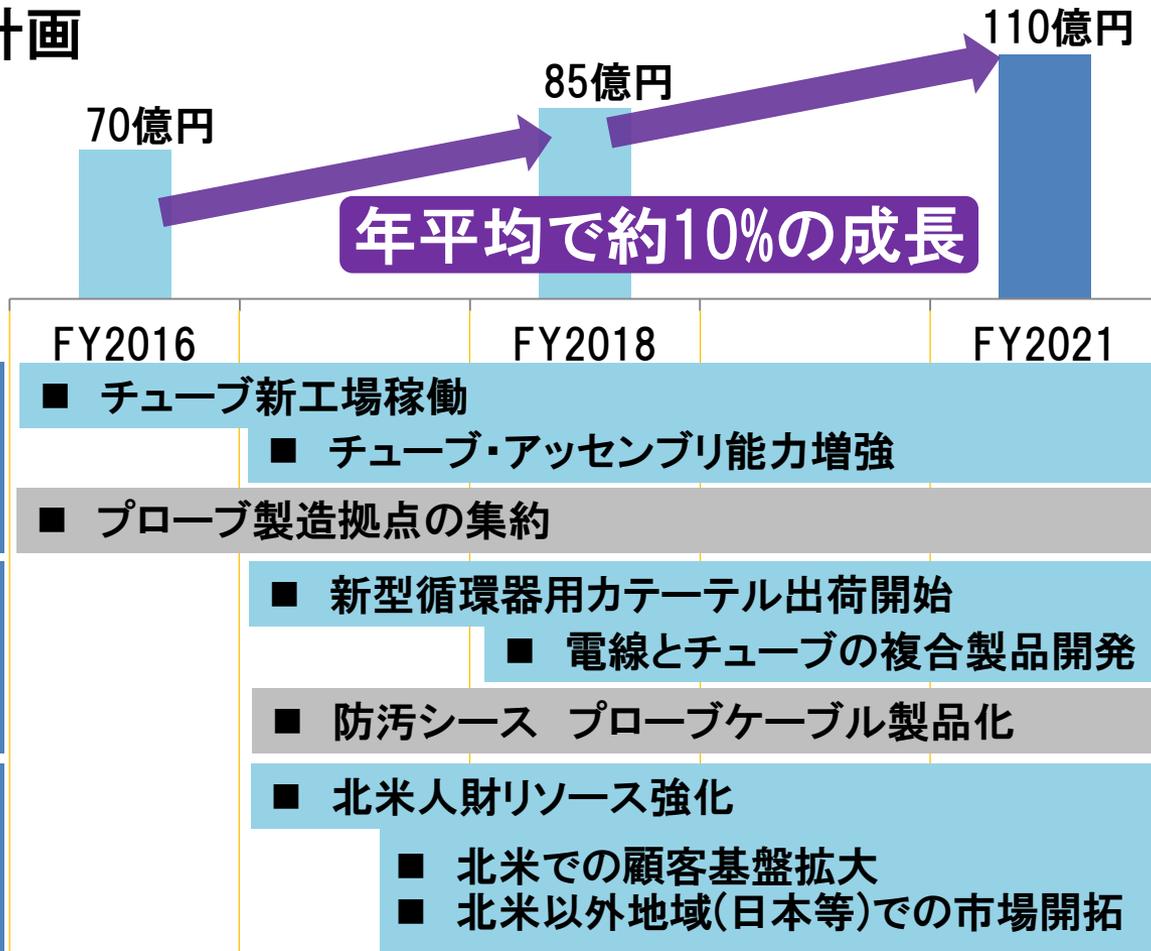
**鉄道車両組立の
作業工数削減*
と工期短縮**

配線を事前にシミュレーション 配線をタブレット端末でガイド

*従来比50%減の実績
(出典:日立評論 2016年10・11月合併号)

鉄道分野 売上目標
100億円(2016年度) ⇒ 140億円(2018年度)

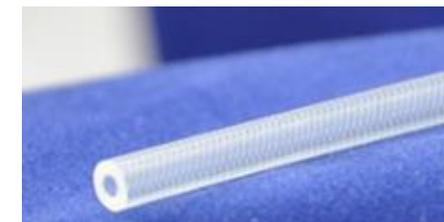
■チューブ事業の拡大 + プローブケーブルのコスト競争力強化 売上計画



特長的な技術



異形状チューブ



耐圧編組チューブ



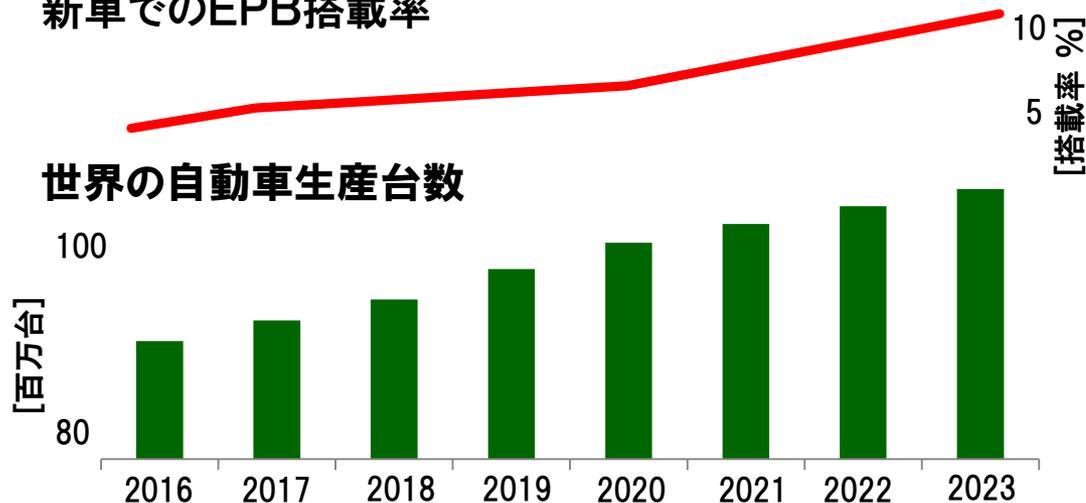
高精度成型部品

医療分野 売上目標

70億円(2016年度) ⇒ 110億円(2021年度)

■EPBハーネス事業の拡大

新車でのEPB搭載率



差別化製品



ABS一体型EPBハーネスの投入

■電装部品のグローバル供給体制強化

メキシコ・タイ・中国拠点のさらなる強化
(2017年度)

新型センサーの開発加速



2016年度と2018年度の売上比較

自動車電装部品 売上目標
275億円(2016年度) ⇒ 310億円(2018年度)

■投資計画

成長投資

- M&Aも視野に入れた鉄道・医療分野の強化
- 革新的電線製造ラインの増強(2017年度下期稼働予定)
- 自動車電装部品のグローバル供給体制強化

基盤強化

- 新型連続鋳造圧延ラインの導入(2018年4月稼働予定)
- マグネットワイヤ革新的生産ラインの導入
(2018年度上期稼働予定)

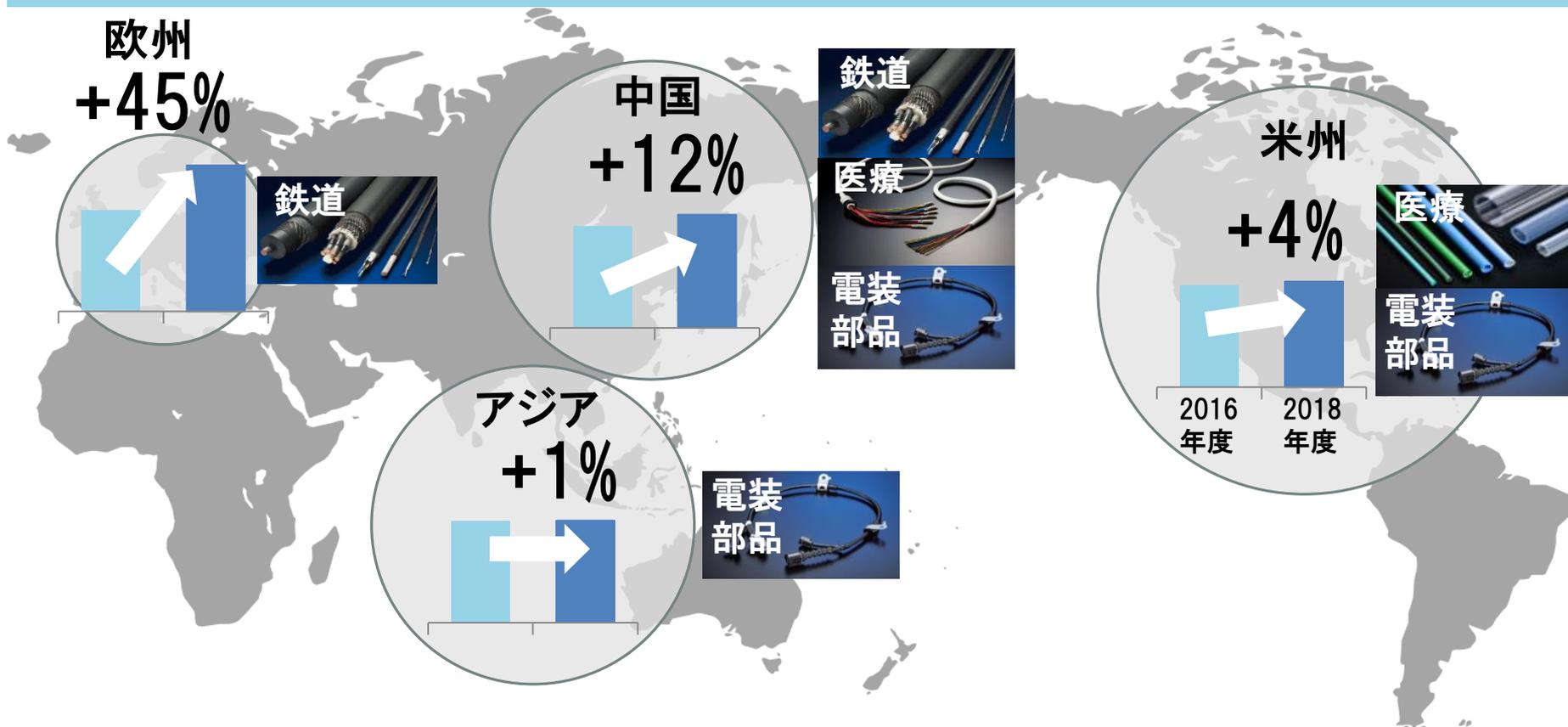
設備投資額:220億円(2016年度～2018年度累計)

電線材料カンパニー事業戦略

[目次]

1. 事業概要
2. 成長戦略・アクションプラン
3. まとめ

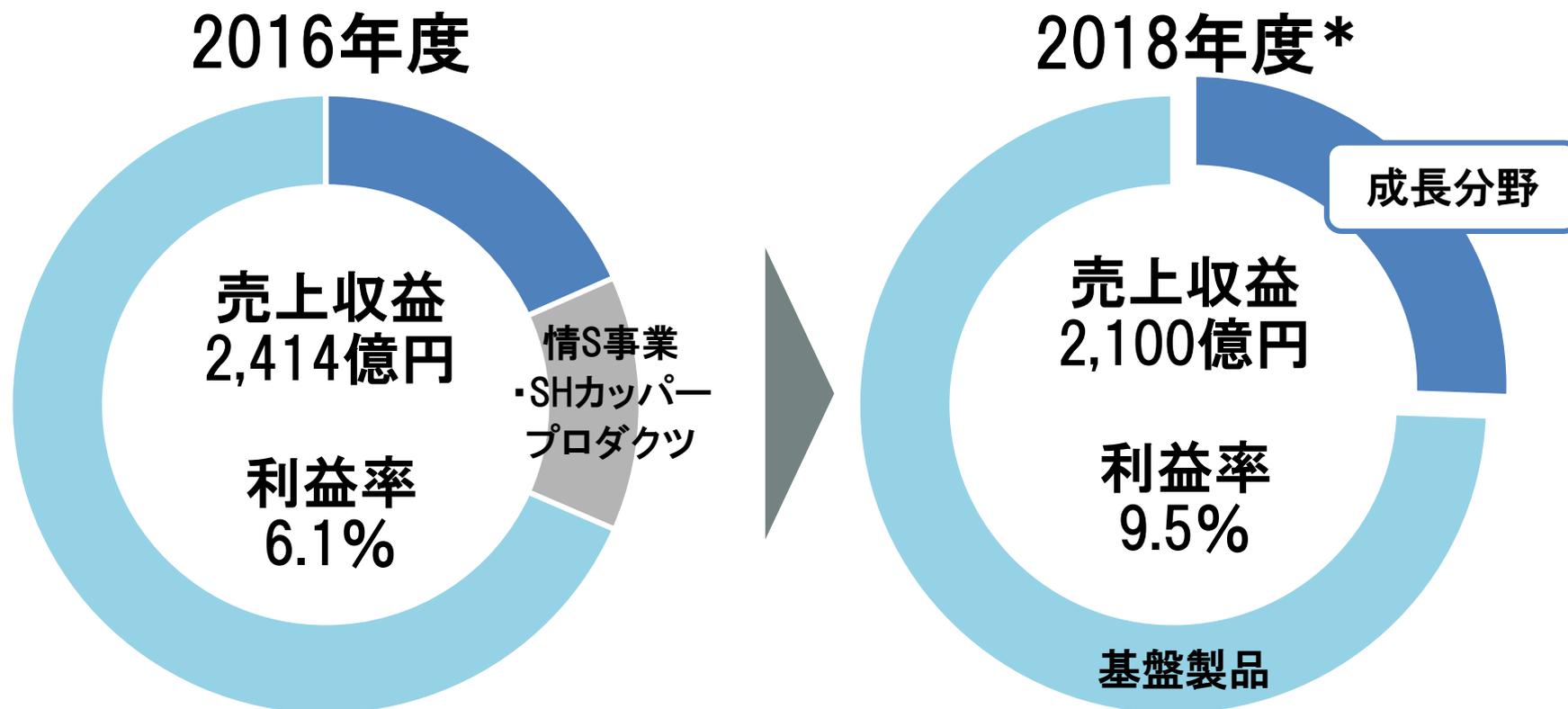
成長分野を中心に海外売上の拡大を図る



海外売上比率: 34% (2016年度) ⇒ 40% (2018年度)

グラフは、2016年度の売上を1とした場合の2018年度の売上との比較

基盤製品の収益力強化と成長分野でのさらなる事業拡大



成長分野の売上収益
445億円(2016年度) ⇒ 535億円(2018年度)

情S:情報システム

*株式会社SH銅パイプ製品移管の影響を含んだ数値です。

基盤製品の強化と成長分野の拡大による 高収益体質への変革

電線材料カンパニー 2018年度 計画*

売上収益: 2,100億円
調整後営業利益: 200億円 (9.5%)

*株式会社SH銅パイププロダクツ移管の影響を含んだ数値です。

本資料に掲載されている情報のうち業績予想、事業計画および配当予想等の歴史的事実以外のものは、各資料の作成時点において、予想を行うために合理的であると判断した一定の前提および仮定に基づいており、内在する仮定および状況の変化等により、実際の業績と異なる可能性があります。その要因となるもの主なものは次のとおりです。

- ・主要市場(特に日本、米州、アジア、欧州)における経済状況および各種規制
- ・急激な技術変化
- ・競争優位性および新技術・新製品の開発・事業化を実現する当社および子会社の能力
- ・製品市場、製品市況の変動
- ・為替相場の変動
- ・国際商品市況の変動
- ・資金調達環境
- ・製品需給、製品市況、為替相場および国際商品市況等の変動に対応する当社および子会社の能力
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・日本の株式相場の変動



Materials Mag!c
日立金属